

平成22年11月30日
水産庁

水産物の市況について（平成22年11月及び12月）

—東京都中央卸売市場における平成22年11月（平成22年10月21日～11月20日集計）の市況と、
平成22年12月の市況見通し（前月との比較）—

I 平成22年11月の全体の市況

東京都中央卸売市場における総入荷量（水産物の生鮮品、冷凍品、加工品の合計）は前月並みとなり、卸売価格（水産物全体の1キログラム当たり平均価格）はやや強含みに推移しました。

II 平成22年12月の主要品目の市況見通し

「まいわし(生鮮品)」

入荷量は前月並みと見込まれ、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。（主漁場は犬吠埼沿岸、常磐沿岸だが、依然低調。）

「さけ・ます(塩蔵品・冷凍品)」

入荷量は冷凍原料の新物チリギンのまとまった搬入があり、塩蔵・製品物も増加するため、前月と比べると増加すると見込まれるものの、良品が多いことから、やや強含みに推移すると見込まれます。

「さば(生鮮品)」

入荷量は前月並みと見込まれ、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。（九州西方海域では盛漁期を迎え、好漁が続いている。）

「するめいか(生鮮品・冷凍品)」

入荷量は各地終漁模様となりつつあることから、前月と比べやや減少すると見込まれ、卸売価格はやや強含みに推移すると見込まれます。（漁況は全体的に低調で推移。羅臼では好漁が続き、近年では最高の水揚げを記録。）

「あじ(生鮮品)」

入荷量は前月並みと見込まれ、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。（主漁場は山陰沿岸、九州西沖周辺。）

「まぐろ(冷凍品)」

入荷量は年末の需要期ということもあり、赤身類、脂身類ともに前月と比べると増加すると見込まれ、卸売価格はやや強含みに推移すると見込まれます。

凡例（目安）

増減率	入荷量	卸売価格
0～2%	並み	横ばい
3～10	やや増加(減少)	やや強(弱)含み
11～20	増加(減少)	強(弱)含み
21～51	かなり増加(減少)	かなり強(弱)含み
51～	大幅に増加(減少)	—

東京都中央卸売市場への総入荷量・卸売平均価格(概数)

(単位:千トン、円/kg)

	11月		前月		前々月	
	入荷量	価格	入荷量	価格	入荷量	価格
22年	53	816	52	790	48	787
前年	52	786	52	748	53	725

注1:入荷量及び卸売価格は、それぞれ前月の21日から当月の20日までの暫定数値。

注2:入荷量は生鮮品、冷凍品、加工品の合計。

主要品目の価格

(単位:円/kg、%)

	東京都中央卸売市場卸売価格(概数)			
	11月	前月対比	前年同月対比	平年同月対比
いわし(生鮮品)	552	99	159	115
さけ・ます(平均)	724	101	117	111
(ぎんざけ塩蔵品)	683	100	100	101
(あきさけ塩蔵品)	420	100	114	88
(ときさけ塩蔵品)	840	100	100	106
(べにざけ塩蔵品)	1,050	100	105	109
(さけ類冷凍品)	735	104	128	120
さば(生鮮品)	579	130	161	142
するめいか(平均)	417	100	123	108
(生鮮品)	437	100	127	110
(冷凍品)	355	106	116	109
あじ(生鮮品)	501	103	110	108
まぐろ(冷凍品)	1,268	103	91	94
(めばち冷凍品)	969	107	92	105
(きはだ冷凍品)	798	106	91	117
(くろまぐろ冷凍品)	2,860	100	98	90
(みなみまぐろ冷凍品)	1,796	118	102	84

注1:品目により、市場で主流となる形態が異なることから、市況を把握する指標としてもっとも適当な形態についての価格データを掲載している。

注2:11月の価格は1~20日までの速報値。平年とは平成17年~21年の加重平均値。

注3:さけ類冷凍品は、主として、ぎんざけ、あきさけ、ときさけ、べにざけ、アトランティックサーモンが含まれる。

注4:さけ・ます(平均)は、さけ・ます類全般の塩蔵品及び冷凍品が含まれる。

注5:まぐろ(冷凍品)は、めばち、きはだ、くろまぐろ、みなみまぐろが含まれる。

問い合わせ先:水産庁加工流通課企画調査班
 代表 03-3502-8111
 内線 6617 中谷、小林
 直通 03-3591-5612